# 中国の学校教育における学力観に関する研究

Nara Women's University

人文科学系・人間科学領域　**小野寺　香**　准教授　ONODERA Kaori　修士(教育学)(東北大学)

■研究キーワード　比較国際教育学

■主な所属学会　日本比較教育学会／日本国際教育学会

■研究者総覧　https://koto10.nara-wu.ac.jp/profile/ja.0ccfc7ffa1e4cbca520e17560c007669.html

研究者総覧

## 研究概要

近年、学校教育をとおして育成すべき学力のとらえかたについて各国で検討されてきましたが、そのさい、国際的に大きな影響力をもつものとして、例えば国際学力到達度調査であるPISAの実施を通したOECDによるキー・コンピテンシーがあげられます。そこでは、能力について、単なる知識や技能の獲得に限らず、それらを用いて特定の文脈の中で複雑な要求に対応することができる力であるとして、個人の内的な属性にとどまらず、文脈との相互作用の産物として捉えています。
中国でも、このキー・コンピテンシーを「核心素養」として翻案することで、学校教育をとおして育成する学力を定義していると言われています。それが高校の教員によってどのように解釈されており、どのような教育実践がなされているか調査しています。

中国の学校における調査

## アピールポイント

中国における高校教員の学力観について、主に以下の2点から検討することをとおして、「核心素養」を実証的に明らかにすることをめざしています。

1. 中国の高校の教育課程のなかでも、いわゆる探究的な学習を行うことを目的とする科目にとくに着目しています。そのような科目では、生徒による「核心素養」の獲得を最終目標としながら、状況に応じて授業実践の内容や方法について一定程度、学校あるいは教員が決定することが求められています。そこで当該科目の到達目標や授業実践内容方法等を調査することをとおして、教員が「核心素養」を具体的にどのような能力としてとらえているのか、教員による学力観を明らかにすることをめざします。

2. 大学入試制度のありかたとの関係からも、教員の学力観について調査しています。中国の大学入試制度は、国家の関与による規範的性格を与えられた学力筆記試験を中心とすることで、公正さや質を保障することを目指してきたと言われています。しかし近年は、一部の地域において、学力筆記試験を中心としつつ、大学が独自に決定するそのほかの選考方法(例えば、口述試験など)もあわせて実施する例がみられます。このことが、教員の学力観や授業実践のありかたにどのような影響を及ぼしているか、調査します。